

中海の利活用

実施中・検討中の取組

【湖面湖岸の利用】

① 中海周遊サイクリングの推進

(中海周遊コースの設定など環境を整備し「サイクリングの聖地」としてイメージアップを図る)

② 中海周遊「EV車でエコツアー」の推進

(充電インフラの整備等に取り組み安心して走行できるルートを実現、「環境にやさしいまち」をPR)

【藻の利活用】

③ 中海の「藻」の活用

(海藻を回収して産業などへ利用することにより中海の藻の循環システムを構築する)

【食文化】

④ 「中海エシカルフード」の開発・提供

(中海産品の復権を目指して公共施設等で中海メニューを提供する)

【環境教育】

⑤ ラムサール条約普及啓発の取組

(中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取組を進める)

【一体感の醸成】

⑥ ポータルサイトによる情報発信

(ここを見れば、中海央道湖が「わかる」「保全に参画できる」、情報発信の拠点づくり)

⑦ 「日本風景街道」の推進

(央道湖・中海・大山圏域の「日本風景街道」活動を県境を越えて推進する)

⑧ 中海ワイズユース住民活動の推進

(中海圏域の住民から中海の利活用の提案を公募し、助成等を行うことで取組を支援)

構想段階のアイデア

⑨ 「中海憲章(仮称)」の制定

⑩ 環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI

⑪ 環境負荷の軽減行動の指標化 ～私たちにできること～

⑫ マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

⑬ ECO シップコンテスト in NAKAUMI

⑭ 中海周遊船の運航支援

⑮ 高等教育機関と連携した人材育成

【湖面湖岸の利用】 ① 中海周遊サイクリングの推進

《現状》

○景観や観光資源等に優れた中海周辺で、地元住民から海外の来訪者まで、安全で快適なサイクリングが楽しめるよう、中海周遊サイクリングの推進について検討を進め、平成26年度までにコースを案内する路面標示の工事とコースマップの作成が完了。

《今後の取組》

○PR活動等、コースのさらなる利活用を図ることについて、国、両県、関係市が連携して検討。

○観光部局との連携した取り組みの推進
⇒山陰における広域観光周遊ルートとの連携 など

1 目 的

景観や観光資源等に優れた中海周辺を、地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめるよう周遊コースを提示するなど、豊かな水辺環境を実感できる環境を鳥取・島根両県で一緒につくり、中海が「サイクリングの一大聖地」となることを目指す。

2 平成27年度取組概要

- 既存のサイクリングイベント（中海ライド）でコースの一部を活用
- サイクリングコース内の狭隘部等の解消について調査を実施（鳥取県）

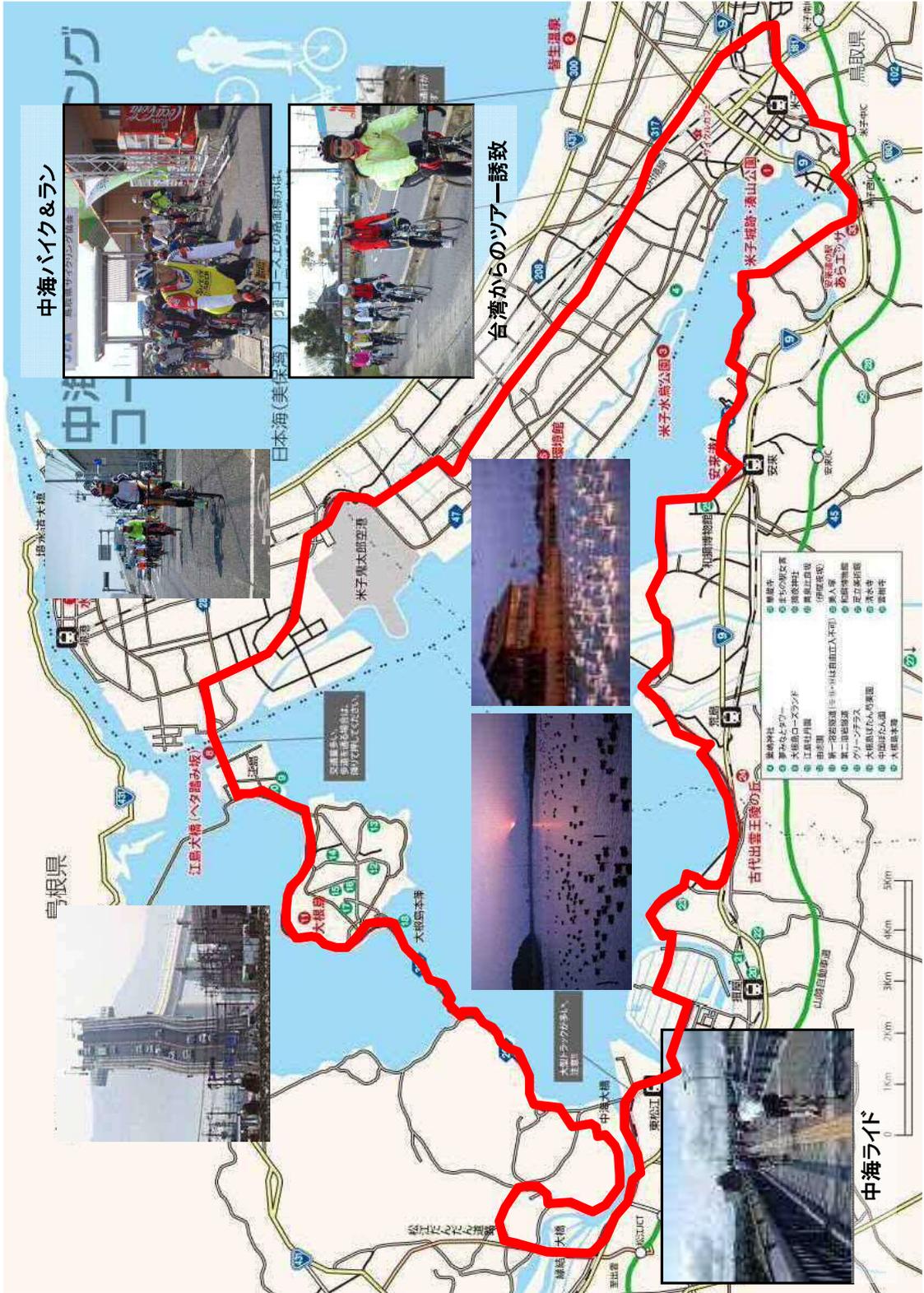
3 これまでの取組状況

- ・H22年度「サイクリングロード整備検討会」（鳥取県組織）を設置
- ・H23年度「大山中海サイクリングマップ」を試作・公表
「宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議」（島根県組織）を設置
- ・H24年度 専門家による検討中コースの試走（島根県）
- ・H25年度 コース案について道路管理者・公安委員会等と協議
- ・H26年度 サイクリングロードの環境整備（路面表示等）、サイクリングマップ完成、台湾からのサイクリングツアーの受入れ（鳥取県）



<主な関係主体>

鳥取県西部総合事務所（地域振興局、米子県土整備局）、島根県（土木部、政策企画局）
中海沿岸市 ほか



中海バイク&ラン



台湾からのツアー誘致



中海ライド

【湖面湖岸の利用】 ② 中海周遊「EVカーでエコツアー」の推進

《現状》

- 中海圏域を電気自動車（EVカー）の利用者が安心して走行できるよう、急速充電器等のインフラ整備を推進。
- 各市で公用車として使用しているEVカーを、閉庁日に住民や観光客にレンタルする等、レンタカー、カーシェアリングによるEVカー利用システムを構築（米子市2台、境港市1台、安来市1台、松江市5台 合計9台）
- 中海の水辺環境を満喫しながら周遊できるドライブルートの情報発信。

《今後の取組》

- 市長会と両県および関係市で連携を取りながら取り組みを普及啓発。
- 観光部局との連携した取り組みの推進
⇒ 山陰における広域観光周遊ルートとの連携 など

1 目 的

中海周辺エリアにおいて電気自動車（EVカー）の充電施設を整備するなど、中海の水辺環境を満喫しながら安心してレンタルEVカーで走行・周遊できる環境づくりを推進するとともに、中海の水質という環境問題を身近に持つこの中海圏域で率先してEVカーの普及促進に取り組み、「環境にやさしいまち」としてPRを図る。

2 平成27年度取組概要

- ドライブマップ（10,000部を予定）の作成（中海・宍道湖・大山圏域市長会）
配布場所：米子駅レンタカー営業所、観光協会・案内所、道の駅など
- 市役所閉庁日におけるEV公用車のレンタル（中海沿岸4市）
- 鳥取県コムスシェア実証プロジェクト（鳥取県）
超小型モビリティ「コムス」を公用車として県内に5台導入（うち1台は鳥取県西部総合事務所
に配備）し、県民とシェアリングを行う全国初の取組みを開始。（H27年8月）

3 これまでの取組状況

【EVカー（閉庁日貸出公用車）の導入】9台

中海・宍道湖・大山圏域市長会 6台
（米子市2台、境港市1台、松江市2台、安来市1台）
松江市単独3台
レンタル実績 287回（4市計：H23.10.15～27.9末）

【急速充電器の設置】

中海・宍道湖・大山圏域市長会：4カ所
（皆生温泉観光センター、境港市役所、松江市役所、道の駅「あらエッサ」）
松江市：2カ所（道の駅「本庄」、道の駅「秋鹿なぎさ公園」）
米子市：1カ所（米子市役所第2庁舎）
その他：くにびきメッセ、鳥根県立浜山公園、山陰自動車道宍道湖SA上り・下り、
由志園、鳥取県西部総合事務所など



充電の様子（皆生温泉観光センター）



<主な関係主体>

中海沿岸市中海・宍道湖・大山圏域市長会、鳥取県、島根県、
関係行政機関、民間事業者等ほか

《現状》

- 海藻刈りによる栄養塩循環システムの構築、海藻農法による農業再生プロジェクト、住民参加型イベントの開催のほか、藻の産業利用に係る成分分析や海藻肥料の施用効果検証等の調査研究等を実施。
- 事業者の取り組みの成果により、海藻肥料を使って日野町で栽培された米が平成27年秋から境港市の学校給食に使用されたり、秋の新嘗祭の献穀米とされるなど、注目されてきている。

《今後の取組》

- 引き続きNPOと両県が連携しながら、肥料化に向けた技術確立や回収コスト及び製造コストの削減、販路の拡大とブランド力アップを推進。

1 目 的

かつて肥料や食用加工品として採取されていた海藻を「未利用資源」ととらえ、新しい産業へ結びつける。海藻を回収し湖外へ搬出することにより水質浄化につなげるとともに、有機肥料などの原材料として使用することで、水質浄化と産業創出を兼ね備えた資源循環の仕組みを構築する。

2 平成27年度取組概要

- 海藻刈りによる栄養塩循環システム自立支援事業（鳥取県・島根県両県連携）
- 旧加茂川藻刈り体験事業（鳥取県）
- 海藻肥料の施用効果検証（鳥取県）
- 海藻農法による農業再生プロジェクト（海藻農法普及協議会）
- 藻の回収等住民参加型イベント（認定NPO法人自然再生センター）

3 これまでの取組状況

【海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業：両県連携事業】

- ・認定NPO法人自然再生センター（島根）、海藻農法普及協議会（鳥取）に委託し実施。H23は343トン、H24は295トン、H25は275トンを回収し利活用業者へ引き渡し。
- ・H26から補助金制度に事業を改め継続実施。340トン回収。

【海藻農法による農業再生プロジェクト：鳥取県】

- ・海藻農法導入農家50農家、導入耕地面積40ha以上。野菜市、セミナー・説明会開催。通販サイトの立ち上げ等を実施。
- ・H26は海藻農法普及協議会にて海藻農法によるブランド化の取組を推進。

【藻の回収参加型イベント：島根県】

- ・H23からは藻刈り体験、水環境学習会、中海の幸の試食会等を実施。H23約30名、H24約50名、H25約70名の参加。
- ・H26からは認定NPO法人自然再生センターの自主事業として実施。上記取組に加え、海藻肥料で育てたサツマイモの芋ほり体験を実施。約30名参加。

【旧加茂川藻刈り体験事業：鳥取県】

- ・H23.7の「クリーンアップ in 加茂川 2011」に、市民、各種団体等の200名が参加。以後毎年実施。

【調査研究：両県】

- ・藻の分布・現存量調査、成分分析を実施し、両県行政担当者とNPO法人との意見交換を実施。今後も必要に応じて実施。

【海藻肥料の施用効果検証：鳥取県】

- ・H23、24 白ネギ、トマト、サツマイモへの施用効果を検証
- ・H25～ 水稻で施用効果を検証中



<主な関係主体>

鳥取県（生活環境部、農林水産部、西部総合事務所）
島根県（環境生活部、農林水産部）
海藻農法普及協議会、NPO 法人未来守りネットワーク
認定 NPO 法人自然再生センター、中海自然再生協議会
ほか

《現状》

○かつて地域の食文化を形成していた特徴ある「中海産」食材の復活に向け、まずは「啓発・PRや養殖試験」を中心とした取り組みを展開している。

《今後の取組》

○中海水産資源の回復、中海食材の安定供給と提供を図るため、引き続きNPO、両県、関係市との連携を図り、各種取り組みを推進。

エシカル (ethical) という用語は、「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、最近では「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用。

1 目 的

かつて中海で多く水揚げされ、地域の食文化を形成していた中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、食文化を復活させること等により、中海産の恵みを循環利用する取り組みを進めるとともに、環境意識の醸成を図る。

2 平成27年度取組概要

○中海食材の提供

・秋から中海の海藻を原料とした肥料を使って日野町で栽培した「海藻米」を境港市の学校給食で提供。

○中海食材の開発等

- ・スジアオノリの養殖・加工、伝統食文化伝承（ゴズの昆布巻き）（NPO）
- ・中海産オゴノリ入りクッキー、スジアオノリ入りようかんの販売（民間事業者）
- ・サルボウガイ復活への取り組み（島根県、松江市、中海漁協）
- ・アサリのカゴ養殖（島根県、中海漁協）
- ・ウナギの稚魚放流（松江市、中海漁協）

3 これまでの取組状況

【海食材の提供】

- ・H23 島根県庁食堂で中海の食材を使ったメニュー案を策定。
- ・第2回中海会議から、中海食材を使った料理を提供し試食（赤貝めし弁当、スズキの昆布締め等）
- ・H24年大会から「中海OWS」参加者へ、中海食材を使ったアサリ汁等の料理を提供。

【中海食材の開発に関連する取組】

○スジアオノリの養殖・加工

・松江市本庄小学校の児童等を対象に、NPO法人が主体となってアオノリの収穫、板アオノリ作りなどの体験学習を実施。

○民間事業者による中海食材の加工品販売

- ・松江市内のパン店で中海のオゴノリを練り込んだクッキーを販売。販売額の一部はNPOに寄附され、中海の環境改善等に役立てられる。
- ・道の駅本庄でスジアオノリ入りようかんを販売

○アカガイ（サルボウ）復活への取り組み

- ・島根県が種苗の生産や養殖方法などについて技術的に支援。
- ・中海漁協が水中にぶら下げる形でのカゴ養殖試験を実施。

H25年度から試験販売。H26年度は2.7tまで増産され、H27年度は5tの生産を目指している。

価格は、市価の3倍程度であるが売れ行きは好調。低コスト化が課題。

○伝統食文化伝承

- ・松江市意東小学校の児童を対象に NPO 法人が主体となって、地元住民の協力のもと「ゴズの昆布巻き」作りの体験学習を実施。
- ・食文化の伝承を図ることを目的に、調理方法を DVD 等に記録保存。



スジアオノリの収穫



アカガイの煮付け

<主な関係主体>

NPO法人中海再生プロジェクト（鳥取）
認定NPO法人自然再生センター（島根）
鳥取県（元気づくり総本部、西部総合事務所）
島根県（環境生活部、農林水産部、政策企画局）
松江市、境港市、中海漁協　ほか

⑤ラムサール条約普及啓発の取組

《現状》

- ラムサール条約登録（H17）以降、保全再生、交流学习、賢明な利用（ワイズユース）の普及啓発を継続して実施し、地域住民や次世代を担う子どもたちの意識醸成が進み、活動も活発化している。
- ラムサール条約登録5周年事業（H22）以降は、次の取組を継続して実施
 - ・子どもラムサール交流
 - ・他地域との交流・学習
 - ・シンポジウム等の開催
 - ・講演会、自然体験、バスツアー等
- 平成27年度は、登録から10年となるため、これまでの取組の振り返りのほか、ワイズユースの更なる促進などステップアップを目指して普及啓発に取り組んでいる。
 - ・シンポジウム・フェアの開催
 - ・中海周辺でのサイクリング、ウォーキングイベントの開催
 - ・国内外の子どもを中海に招聘した子どもラムサール交流事業

《今後の取組》

- NPO等との連携を進め、更なる中海・宍道湖の賢明利用（ワイズユース）の普及啓発を実施
- 登録10周年イベントを今後にしっかりとつなげていく取組を検討（交流の継続、テーマソングの活用等）

1 目 的

鳥取・島根両県で地域住民や次世代を担う子どもたちの参加型普及啓発事業を実施することにより、貴重な財産である中海・宍道湖を賢明に利用（ワイズユース）する意識を醸成する。

2 平成27年度取組概要

- 松江水郷祭「しらかた広場夏祭り」（8/1～2・松江市内）
 - ・水郷祭会場に啓発ブース及び流域の産品を扱うブースを出店し、水環境保全と賢明利用及びリユース食器の取組についてPR
 - 「ラムサール条約登録10周年記念・アジアこども交流会」（8/22・米子水鳥公園ほか）
 - ・韓国、中国、国内（琵琶湖など）の湿地で活動するこどもたち等との交流
 - 「中海・宍道湖ラムサール条約登録10周年記念中海バイク&ラン」（10/10・境港市内）
 - ・サイクリング又はランニングを通して、中海について学ぶ
 - 「中海・宍道湖ラムサール条約登録10周年記念シンポジウム」（11/3・米子市）
 - ・活動団体の取組発表、記念トークショー、こども未来宣言、テーマソング合唱など
 - 「中海・宍道湖ラムサール条約登録10周年記念ウォーキング」（11/15・米子市内）
 - ・ウォーキングをしながら中海に関するクイズを解き、中海について知る
 - 「中海・宍道湖ラムサール条約登録10周年記念ラムサールフェア」（11/23・松江市内）
 - ・ステージイベント、展示、体験プログラムなど
- ※）このほか、中海周辺で開催されるイベント主催者に対し、イベント名に「ラムサール条約登録10周年記念」と付すなどの協力依頼を行い、普及啓発に注力（中海ライド、中海オープンウォータースイムほか）



3 これまでの取組状況

【条約登録後10年の主な取り組み】

○保全再生

- ・ 中海・宍道湖一斉清掃 (H18～) / 両県、沿岸自治体、住民等

条約登録の翌年 (H18年度) から、両湖沿岸市町で実施日を統一 (環境月間である6月の第2日曜日)。毎年約8,000人が参加し、これまでの延べ参加者は約7.3万人、回収したごみの量は累計約173トン。



年度	開始式会場	参加者 (全体)	ゴミ収集量 (全体)
18	波入港親水公園 (松江市)	6,000人	20.00 t
19	湊山公園親水護岸 (米子市)	5,728人	16.28 t
20	ハーモニータウン汐彩 (安来市)	7,844人	16.15 t
21	境港市リサイクルセンター等 (境港市)	7,433人	27.95 t
22	意東海岸 (東出雲町)	7,232人	14.56 t
23	波入港親水公園 (松江市)	7,976人	17.80 t
24	湊山公園親水護岸 (米子市)	7,224人	17.24 t
25	島田干拓地 (安来市)	7,696人	13.67 t
26	境港西工業団地 (境港市)	7,544人	14.07 t
27	本庄水辺の楽校 (松江市)	8,050人	15.11 t
	合計	72,727人	172.83 t

○交流学习

- ・ こどもラムサール交流 (H19～) / 両県、米子水鳥公園、宍道湖自然館ゴビウス

全国の湿地で活動している子どもたちとの交流会を継続実施し、次世代のリーダーの育成を図ってきた。

(主な交流先)

谷津干潟 (千葉県/H23～)、豊岡 (兵庫県/H23～)、琵琶湖 (滋賀県/H23～)、東与賀海岸 (佐賀県/H26～)、チュナム貯水池 (韓国昌原 (チャンウォン) 市/H22、27)、マイポ湿地 (中国香港/H27)



2012
谷津干潟 (千葉県)



2013
琵琶湖 (滋賀県)



2014
東与賀海岸 (佐賀県)

年度	内 容
17	○中海・宍道湖ラムサール条約 登録記念シンポジウム (H17.12.3)
18	○中海・宍道湖ラムサール条約 登録1周年記念大会 (H18.12.2) ○中海・宍道湖ラムサール条約 シンボルマーク発表 (H18.12.2)

1 9	○KODOMOラムサール〈中海・宍道湖〉全国湿地交流の開催 (H20. 2. 9～11)
2 2	○ラムサール条約登録5周年記念イベント ・「中海・宍道湖を知る・学ぶ展(松江会場)」(H22. 9. 30～10. 10) ・「次世代へつなぐ豊かな恵み(シンポジウム)(米子会場)」(H22. 10. 30) ○北東アジアこども交流 (韓国・チャンウォン市から招聘)(H22. 10. 9～10. 11)
2 3	○ラムサール条約リレーシンポジウム (H23年から島根・鳥取が連携実施 年5回シリーズ) ○こどもラムサール全国湿地交流の開催 (H23. 10. 8～10. 10) ⇒谷津干潟、豊岡、琵琶湖から中海に招聘し交流
2 4	○こどもラムサール交流・派遣 ・谷津干潟での交流 (H24. 9. 15～9. 16) ・「豊岡」条約登録に併せ、豊岡を訪問して交流 (H24. 10. 06～10. 07) ○ラムサール条約リレーシンポジウム (年5回シリーズ テーマ「食」)
2 5	○こどもラムサール交流・派遣 ・琵琶湖での交流 (H25. 8. 22～8. 23) ・谷津干潟及び豊岡等のこども達を宍道湖へ招待し交流 (H25. 11. 9～11. 10) ○ラムサール条約リレーシンポジウム (年間5回シリーズ テーマ「恵み」)
2 6	○こどもラムサール交流・派遣 ・佐賀県東与賀のこども達が米子水鳥公園を訪れ交流 (H26. 4. 5～4. 6) ・佐賀県東与賀干潟での交流 (H26. 7. 26～28)

○賢明な利用(ワイズユース)

- ・ 中海海開きイベント (H22～) /NPO 法人未来守りネットワーク
米子市大崎にて、44年ぶりの海開きイベント「きれいになった海で泳がいや」を開催。子供たちが水質改善を体感。
- ・ 中海オープンウォータースイム (H23～) /中海 OWS 実行委員会
NPO 中海再生プロジェクトが、スローガン「10年で泳げる中海」をNPO活動10年目に実現。オープンウォータースイミングは2008年北京五輪から正式種目になった競技。
- ・ 海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築 (H23～) /両県、認定NPO法人自然再生センター、海藻農法普及協議会
中海の未利用資源の活用策として、海藻を循環利用する仕組みの構築に取り組んでいる。水質浄化効果に加え、循環サイクルにより漁業者、農家、企業、NPO、地域住民など、幅広い人々の関わりが生まれ、利活用の促進にも効果がある。
- ・ その他、各種団体において行う中海の利活用のおり、環境・学習、食、スポーツ、イベントなど、幅広い分野での利活用が進んでいる。



<主な関係主体>

鳥取県(生活環境部)、島根県(環境生活部)
中海・宍道湖・大山圏域市長会 ほか

《現状》

○以下のコンテンツを内容とする、中海・宍道湖のポータルサイトを運営。

- ①ニュースリリース
- ②イベントカレンダー
- ③中海・宍道湖のご案内（ラムサール条約について、水質と浄化の取組など）
- ④加入団体のご紹介
- ⑤リンク

○平成 27 年 10 月末現在 紹介ページ掲載団体 28 団体

・NPO法人、民間企業、行政など様々な団体が加盟

《今後の取組》

○情報量を充実させるとともに、より使いやすい情報発信システムの検討。

1 目 的

ラムサール条約登録5周年記念事業を契機に応援団として賛同を得た企業等163社を会員とする「ポータルサイト」を立ち上げ、中海・宍道湖関連催事の情報集約と発信の拠点とする。

2 平成27年度取組概要

ポータルサイトの運営と周知

・登録10周年記念イベントを、ポータルサイトを活用し周知。

3 これまでの取組状況

- ・H23.10 ポータルサイト「中海・宍道湖情報館」の試験運用
12 正式運用開始
- ・H26 年度投稿件数：45 件
- ・ラムサール登録10周年記念イベントを、ポータルサイトを活用し周知



< 主な関係主体 >

鳥取県（生活環境部）、島根県（環境生活部）

《現状》

- 鳥取・島根両県にまたがり中海・宍道湖・大山に隣接する10の市町で、国道9号や国道431号など中海・宍道湖を囲む「水辺ルート」等を日本風景街道として登録し、風景街道ルートに案内看板やビュースポットなどの道路環境整備を実施。
- 島根県ウォーキング協会やNPO大山中海観光推進機構に代表される活動団体が主体となって、風景街道ルートにある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動を実施。

《今後の取組》

- 引き続き道路環境整備を実施するとともに、整備済のサインや道の駅ブース等を活用し、NPO等活動団体との連携・協働による観光振興や地域の活性化を推進。
- 観光部局との連携した取り組みの推進
⇒山陰における広域観光周遊ルートとの連携 など

1 目 的

中海・宍道湖地域等の豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくりを推進するため、日本風景街道活動「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～」を推進する。

2 平成27年度取組概要

- 整備済みのサイン等を活用し、地域にある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動をNPO活動団体と行政が一体となって推進。

3 これまでの取組状況

【H22～25年度】

- ・島根県内の風景街道ルートにルート案内看板や二十社寺案内看板を整備。
- ・道の駅9箇所に、風景街道ルート名大型看板、ルート地図板、PRブースを整備。
- ・道の駅「本庄」近傍、外2箇所にビュースポット（東屋、風景解説板、ベンチなど）を整備。
- ・大山寺付近に二十社寺案内看板1基を追加

【H26年度】

- ・日本風景街道大学しまね校開催（H26.11.7～8）



『人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路』

<主な関係主体>

- 鳥取県（西部総合事務所米子県土整備局）
- 島根県（土木部）

【一体感の醸成】 ⑧ 中海ワイズユース住民活動の推進

《現状》

○NPO、住民、各種団体、企業から、中海の利活用の提案を公募し、募集主体が採択の上、助成等を行う事業を実施。

《今後の取組》

○水辺の新しい活用の可能性を創造し、賑わいと活力のある水辺とまちづくりを目指す取組（ミズベリング・プロジェクトなど）を通じて、ワイズユースを促し、住民の活動への参加を推進し、中海発で全国の水辺とつながる活動を展開。

○賑わいと活力ある水辺とまちづくりを目指すにあたって、規制緩和を活用した方策を検討。

○中海オープンウォータースイムは、引き続き後援を行う。

1 目 的

中海圏域の住民から中海の賢明利用（ワイズユース）企画の提案を公募し、住民自身が未来志向で企画を考え実施することで、中海への関心や気運を盛り上げる。

2 平成27年度取組概要

○境港市夕日ヶ丘では、かわまちづくりを通じた将来の水辺の利活用の可能性を住民主体で意見交換し、気運の向上へつながった。



境港市夕日ヶ丘では住民主体で将来の水辺の利活用について意見交換

○中海OWS2015大会は、「環境をテーマにしたスポーツ大会」として全国へ情報発信し、3回目の日本水泳連盟の認定を受け、5kmのコースを新設し6月開催、全国から多数参加。



中海オープンウォータースイム

3 これまでの取組状況

- ・ H24年度は両県NPOの共同体が提案した「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業を、鳥取・島根広域連携協働事業として採択し、支援。
- ・ H24.6にはこの事業の一つの「中海オープンウォータースイム」が開催され、後援として両県で協力・支援した。
- ・ H25年度、H26年度も後援を行うなど両県で協力・支援している。
- ・ H26年度から規制緩和の活用を含めた賑わいと活力ある水辺のまちづくりを目指す取り組みを通じてワイズユース住民活動を推進するため、中海圏域のNPO等へ働きかけ。

<主な関係主体>

鳥取県（西部総合事務所）、島根県（環境生活部）
国土交通省

【 構想段階 】

その他の利活用

⑨ 「中海憲章(仮称)」の制定

中海を取り巻く地域が一体となって一緒に行動していくための共通の言葉「中海憲章(仮称)」を制定する。その理念や指針を実行するイベントの開催や、圏域の小学校、公民館等へ校内、館内への憲章の掲示や関連行事の実施など、活動の契機となるような取組を進める。今後、NPO などの取り組みを支援しながら、地域が一体となった機運を醸成していく。

⑩ 環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI

「皆生トライアスロン」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設する。「中海湖岸周遊コース」を設定して、新たな風景(江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等)を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらう。道の駅も活用し「中海サイクリングロード」とリンクさせる。地元の盛り上がりが不可欠。

⑪ 環境負荷の軽減行動の指標化 ～私たちにできること～

清掃活動、藻の除去、下水道接続などのNPO等団体活動や市民生活行動が、中海の水質にプラス、マイナスの貢献している関係を解り易くするため、数値又は指標化する。学習教材やホームページに反映し、関係性の自覚と水質環境貢献行動へのやりがいを生む。

(例) 海藻、川藻の水中からの引き上げ 100kg ⇒ ○○

生活排水が流れる側溝の清掃 100m ⇒○○

下水道に接続 1軒 ⇒○○ 有機農業化 1反 ⇒○○ 等

⑫ マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

ウインドサーフィン、シーカヤック、ボートなどのマリンスポーツ、釣りなどのレクリエーションエリアとして充実させる。「トレーニング」「参加」「観覧」といった活動が楽しめるエリアにするため、親水空間と設備(休憩スペース、駐車場、水道、トイレ等)を整備することを検討。

⑬ ECO シップコンテスト in NAKAUMI

中海周辺には、電気関係事業や高等教育機関、エネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する(「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗)。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。

⑭ 中海周遊船の運航支援

中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航支援を、周辺自治体で連携して行うことを検討。イベント的な一定時期の限定実施、イベントとのタイアップなどの方法を検討。

⑮ 高等教育機関と連携した人材育成

大学と行政が連携して、中海に愛着や興味がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など(『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。中海に関する「学び」を通して、受講者に生涯学習的な充実感を得ていただくとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらう。

各種団体において行う中海の利活用

中海会議 中海利活用WG事務局(鳥取県元気づくり総本部)

各種団体において、楽しく遊ぶ、スポーツ、観光など、中海を活用した様々な取組が行われている。

- 環境を考える自然学習
- 中海の食材の復活を目指す取組
- 中海での水上スポーツ
- 中海圏域の一体感を目指したイベント

区分	場所	内容	実行者
環境・学習	中海・宍道湖	中海・宍道湖子ども探検クルーズ・・・夏休み期間中(計3回) 小学生対象:湖の自然や水質について実験を交えて学ぶクルージング	中海・宍道湖・大山圏域市長会
	中海・米子市旗ヶ崎(米子食品会館)	中海体験クルージング・中海環境フェア・・・H27.8.22 ヨット・クルーザーによる中海周遊と同時に、中海の生き物、環境について展示見学	NPO法人 中海再生プロジェクト 中海体験クルージング実行委員会
	米子市旗ヶ崎(米子食品会館)	中海ポスター、中海環境標語コンクール・・・H27.8.22 中海に関するメッセージ等	NPO法人 中海再生プロジェクト
	境港市	アマモ場の保全・再生事業・・・H27.6.20など アマモ種子採取イベント、アマモ・コアマモ勉強会、アマモ移植イベント	NPO法人 未来守りネットワーク
	松江市本庄工区	中海海開き～きれいになった中海で泳がいや～・・・H27.7.18 海水浴	NPO法人 未来守りネットワーク
	境港市竹内団地	中海産海藻肥料による農業改革セミナー・・・H27.2.28 海藻肥料の現状と今後の展開についての講演	海藻農法普及協議会
	米子市児童文化センター及び湊山公園	環境学習実験 湊山公園(日本庭園)の池の湖底こううんを実施 ・・・H27.7.11他(計2回)	湖底こううん隊
	宍道湖・中海の親水護岸	宍道湖・中海の環境を五感でチェック 県民による五感(見る・聞く・触れる・嗅ぐ・味わう)を用いた湖沼環境のモニター評価	鳥取県・島根県
食	島根大学白湯サロン	中海・宍道湖の食を広めよう会・・・H26.10.24他(計6回) 各回15～20名参加:中海産の食材(魚介類等)を調理し試食	認定NPO法人自然再生センター
	松江市パン製造販売店	中海産オゴノリ入りクッキーの販売・・・H26.12月～(毎週水曜日に製造) クッキーの販売を通じて中海の環境改善について意識啓発	認定NPO法人自然再生センター パン製造販売店「空」
	松江市江島港、八束町波入	中海でオゴノリ採り&サツマイモ堀り・・・H26.10.23 小学生がオゴノリ採りと海藻肥料を使って栽培しているサツマイモを収穫	認定NPO法人自然再生センター
スポーツ	中海 ライドコース	中海一周サイクリング大会(中海ライド)・・・H27.6.21 参加者360名程度:末次公園(松江市)発着	松江輪栄協同組合
	境港市中浜港	山陰マスターズレガッタ、境港ボートマラソン・・・H27.5.24	境港ボート協会
	境水道	境港ボートレース・・・H27.8.2	境港ボート協会
	松江市美保関町万原特設ボートコース	中海・宍道湖レガッタ・・・H27.11.8	中海・宍道湖レガッタ実行委員会
	境水道	第26回境港ペーロン大会・・・H27.8.2	境港ペーロン協会
	境港市中浜港	第11回こどもペーロン大会・・・H27.5.6	境港市ライオンズクラブ
	米子湾 米子市湊山公園	ラムサール条約登録10周年記念 中海オープンウォータースイム2015・・・H27.6.28	NPO法人 中海再生プロジェクト
	米子市錦海ボートコース	第47回米子市民レガッタ・・・H27.7.12	米子市教育委員会
	安来市中海湖岸	第11回なかうみマラソン全国大会・・・H27.11.1	安来市
イベント	米子市、松江市	中海夕暮れコンサート・・・H27.5.30他(計8回) 中海の夕暮れを活用したイベント。5月から9月まで複数回開催	NPO法人 中海再生プロジェクト